

学力テストの結果から② ～理科編 今 求められる生きる力とは～

全国学力・学習状況調査の問題の中から、特に正答率が低かった問題を紹介します。

まずは右の問題について考えてみてください。これは、5年生で学習する「流れる水のはたらき」の問題です。

右の問題に対して一番多かった答えは(3)で47.2%でした。これは、「川の曲がっている外側は流れが速く浸食の働きがよく見られ、内側では流れが遅く堆積の働きがよくみられる」という、これまでの学習を通して獲得した知識をもとに回答していると考えられます。しかし正答は(1)です。2本のペットボトルの水を同時に流し、量が増えた水が一気に流れ込んだことにより、溝の曲がっているところの外側と内側の両方で棒が倒れているという結果を読み取り、その内容を記述しなければならなかったのです。この実験の結果をきちんと読み取り、結果を分析して考察し内容を記述できた児童は

平成30年度 学力調査 理科 テスト問題
貼り付け

20.2%でした。今回の誤答は、すでにある知識にとらわれたことが、実験の結果を見誤ることに繋がったのではないのでしょうか。

さて、この問題が扱った「増水した水が一気に流れる様子」は、河川の氾濫や土砂災害を連想させます。今年は、大雨や地震・猛暑・台風など、自然災害に見舞われ、不測の事態がたくさん起こりました。既存の知識や経験をもとに「こんなことが起こるだろう。」と予測し、それに備えることも大切です。しかし、事態が予測を超える状況に陥った時、目前にある事実や結果を、まずは忠実に把握すること、それがどういったことに起因するのか、それに対する最善の対処は何かを考える力が、求められています。普段から日常の様々な状況において、新しい知識を得、それを生かしながら生活することだけでなく、課題を目前にしたときに、これまでの考えに囚われずに、それを冷静に受け止め、原因を考えたり、対処をしたりすることの大切さを子ども達に示していけたらと思います。